

談合をも申事候。人數之事者、五千・壹萬何時も可進之候。猶兩人より可被申候。恐々謹言。

三月十三日

秀吉 在判

惟住越前守

御返報

(秀吉の近江坂本に着陣したるは、本月十日に在り。)

四月十日。徳川家康、本願寺顯如に、大坂及び加賀を交附せんことを約す。

【大谷派本願寺文書】 山城

一八三九

今度信雄被逐御入洛、御本意之上、大坂之儀如先規之可被進置候。殊賀弔之儀者、信長如御判形之、是又不可有相違候。委細者彼口上相合候。恐々謹言。

卯月十日

家康 在判

本願寺

(卯月十日は尾張長久手戦役の翌日なり。)

六月朔日。前田利家、羽咋郡氣多社に、社僧の

所務を沒收して之を寄進す。

【能登國古文書】

一八四〇

今度一宮之成敗人之坊主等之所務分、大明神に相付候間、誰々領中成共無殘所可相納候。並跡屋敷以下可爲同前且堂宮可有修造者也。仍如件。

天正十六年六月初日

前田利家 在判

大宮司 監物殿

(年次を十六年とするは十二年の誤寫なるべし。前田利家が氣多神社の俗僧を處罰したることの十二年六月にあるは、左掲の兩文書に據りて見るべし。)

【能登國古文書】

一八四一

當社々僧之儀、如先々可爲清僧。向後於亂行者可爲曲事。仍今度成敗人跡之事者、大明神へ令寄進候。一廉可加修理。並屋敷之義、監物ニ預置候間、竹木以下猥不可伐取様ニ堅可申付候。仍如件。

天正拾貳

六月十六日

前田利家 在判

一宮大宮司殿

【櫻井文書】 羽咋郡

一八四二

氣多社寺僧之儀、如先規之可爲清僧之旨、利家様被仰出、此度俗僧共被相拂候之義、□□□次第に候訖。其提誓文狀之條々。

一、御神前之勤行宿直番、同國家長久御祈禱之儀、無懈怠可執行仕事。

一、御神之普請等、并一切□□□法度を相破儀有之間敷事。

一、於後日俗僧之存分、何方より申事雖有之、俗僧に無一味、如先規之旨清僧として可申定事。

一、惣儀を破り、社内傍輩之領知を望、一切表裏虚言を企、武家へ指出申一儀有間敷事。

右此條々、一言も於相背者、梵天帝尺四大天王、惣て日

本國中大小神祇大師明神、殊當社氣多大神宮之神罰可蒙者也。仍狀如件。

天正十二年六月十九日

社僧中

藥師院

寶元 在判

文珠院

智邊 在判

□□坊

□□坊 在判

清前坊

玄藝 在判

正覺坊

元晴 在判

不動院

榮遍 在判

地藏坊

藝直 在判